



報道関係者 各位

令和6年12月20日

【照会先】

政策統括官付参事官付保健統計室

室 長 清水 貴也

室長補佐 鈴木 和代

患者統計係

(代表電話) 03 (5253) 1111 (内線 7516, 7517)

(直通電話) 03 (3595) 2958

令和5年（2023）患者調査の結果を公表します

厚生労働省では、このほど、「令和5年患者調査」の結果を取りまとめたので公表します。

患者調査は、医療施設を利用する患者について、その傷病の状況などを調査し、今後の医療行政の基礎資料を得ることを目的としています。調査は3年ごとに実施しており、今回は全国の医療施設のうち、病院6,481施設、一般診療所5,853施設、歯科診療所1,268施設を抽出し、これらの施設を利用した入院・外来患者約214万人、退院患者約113万人が対象となりました。

なお、入院・外来患者は令和5年10月の医療施設ごとに指定した1日、退院患者は令和5年9月の1か月間を調査期間としました。

【調査結果のポイント】

【推計患者数】

- 入院・外来別にみると、入院117万5千人、外来727万5千人となっている。

＜4頁 表1＞

- 年次推移をみると、入院では、現在の調査方法となった昭和59年以降、最も少なくなっている。

＜5頁 図1＞

- 傷病分類別にみると、入院では「精神及び行動の障害」21万3千人、「循環器系の疾患」18万3千人、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」13万4千人、外来では「消化器系の疾患」123万6千人、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」99万9千人、「循環器系の疾患」84万2千人の順に多い。

＜6頁 表2＞

【受療率（推計患者数を人口10万対であらわした数）】

- 入院・外来別にみると、入院945（男893、女995）、外来5,850（男5,118、女6,544）となっている。

＜9頁 表4＞

- 年齢階級別に年次推移をみると、入院、外来ともにいずれの年次でも65歳以上が最も高くなっている。

＜9頁 図5＞

詳細は、別添概況をご覧ください。

令和5年(2023) 患者調査の概況

目 次

調査の概要	1 頁
結果の概要	4
1 推計患者数	
(1) 施設の種類・性・年齢階級別	4
(2) 傷病分類別	6
(3) 在宅医療の状況	7
(4) 入院(重症度等)の状況	8
2 受療率	
(1) 性・年齢階級別	9
(2) 傷病分類別	10
(3) 都道府県別	11
3 退院患者の平均在院日数等	
(1) 施設の種類・年齢階級別	12
(2) 傷病分類別	13
(3) 推計退院患者数の構成割合	14
4 入院前の場所・退院後の行き先	15
5 傷病分類別の総患者数	16
統計表	18
受療率の算出に用いた人口	32

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、病院及び診療所（以下「医療施設」という。）を利用する患者について、その属性、入院・来院時の状況及び傷病名等の実態を明らかにし、併せて地域別患者数を推計することにより、医療行政の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象及び客体

全国の医療施設を利用する患者を対象とし、層化無作為により抽出した医療施設における患者を客体とした。

	調査対象 施設数	抽 出 率	回収 施設数	集計客体数	
				入院・外来	退 院
病 院	6, 481	入院 8. 0/10 , 外来 4. 2/10	6, 388	183. 9 万人	112. 5 万人
一般診療所	5, 853	6. 0/100	5, 480	27. 5 万人	0. 8 万人
歯科診療所	1, 268	1. 9/100	1, 184	2. 6 万人	・

注：歯科診療所は、外来のみの調査である。

3 調査の期日

病院については、令和5年10月17日(火)～19日(木)の3日間のうち病院ごとに指定した1日とし、診療所については、令和5年10月17日(火)、18日(水)、20日(金)の3日間のうち診療所ごとに指定した1日とした。

また、退院患者については、令和5年9月1日～30日までの1か月間とした。

4 調査事項

性別、出生年月日、患者の住所、入院年月日（※1）、退院年月日（※2）、主傷病名、副傷病名、診療費等支払方法、病床の種別（※1）、紹介の状況（※3）、退院後の行き先（※2）等

※1 入院患者及び退院患者に対する調査事項

※3 入院患者及び外来患者に対する調査事項

※2 退院患者に対する調査事項

5 調査の方法及び系統

医療施設の管理者が記入する方式によった。

厚生労働省 ———— 都道府県 ———— 保健所 ———— 医療施設
 └─── 保健所設置市 ───┐
 特 別 区

6 結果の集計

厚生労働省政策統括官（統計・情報システム管理、労使関係担当）において行った。

なお、医療施設に関する情報の一部は令和5年医療施設静態調査の結果を用いた。

7 用語の説明

(1) 推計患者数

調査日当日に、病院、一般診療所、歯科診療所で受療した患者の推計数である。

(2) 推計退院患者数

調査対象期間中（令和5年9月1日～30日）に病院、一般診療所を退院した患者の推計数である。

(3) 退院患者の平均在院日数

調査対象期間中（令和5年9月1日～30日）に退院した患者の在院日数の平均である。

(4) 受療率

推計患者数を人口10万対であらわした数である。

受療率（人口10万対）＝推計患者数／推計人口×100,000

(5) 総患者数（傷病別推計）

ある傷病における外来患者が一定期間ごとに再来するという仮定に加え、医療施設の稼働日を考慮した調整を行うことにより、調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受療していない者を含む。）の数を次の算式により推計したものである。

総患者数＝推計入院患者数＋推計初診外来患者数＋（推計再来外来患者数×平均診療間隔（※4）×調整係数（6/7））

※4 令和2年から平均診療間隔の算出において、前回診療日から調査日までの算出対象の上限日数を変更。平成29年までは30日（31日以上を除外）であったが、令和2年からは98日（99日以上を除外）で算出。

(6) 病床の種類

精神病床

精神疾患を有する者を入院させるための病床をいう。

感染症病床

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（平成10年法律第114号）に規定する一類感染症、二類感染症（結核を除く。）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症並びに新感染症の患者を入院させるための病床をいう。

結核病床

結核の患者を入院させるための病床をいう。

療養病床

病院の病床（精神病床、感染症病床、結核病床を除く。）又は一般診療所の病床のうち主として長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病床をいう。

一般病床

精神病床、感染症病床、結核病床、療養病床以外の病床をいう。

8 利用上の注意

(1) 本調査における傷病は、世界保健機関（WHO）の「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」（ICD）に基づいて定められた「疾病、傷害及び死因の統計分類（ICD-10（2013年版）準拠）」を適用して分類している。

(2) 表章記号の規約

計数のない場合	—
計数不明又は計数を表章する事が不適当な場合	...
統計項目のありえない場合	.
推計値、比率等でまらめた結果が表章すべき最下位の桁の1に達しない場合	0又は0.0

(3) 掲載の数値は、単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合もある。

(4) 受療率の算出に用いた人口は、「人口推計（令和5年10月1日現在）」（総務省統計局）である。（32頁「受療率の算出に用いた人口」）

(5) 傷病分類別の数値については、主傷病（※5）について表章したものである。

※5「主傷病」 入院患者 … 調査日現在、入院の理由となっている傷病
外来患者 … 調査日現在、主として治療又は検査をしている傷病
退院患者 … 退院時に入院の理由となっていた傷病

(6) 平成23年は、東日本大震災の影響により、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県は調査を実施していないため、これらの地域を除いた数値となっている。

(7) 本調査では、入院年月日と退院年月日を把握し、これらの項目から在院日数を算出している。入院年月日については、元号（1 令和 2 平成 3 昭和）の番号に○を付け、年月日を記入する調査票となっている。

令和2年調査の審査（データチェック）過程において、在院日数が1万日（約30年）以上となるものが例年より多くあった。このため、個別の調査票を確認したところ、入院年月日「平成元年」「平成2年」の調査票が近年になく多数認められた。

これらは、本来であれば記入者が選択した元号が正しいと考えられるが、一方で元号の番号の○付けにおいて「令和元年」「令和2年」との誤りである可能性も考慮した。そのため、本調査で把握する他の情報を用いて統計的な精査・対応を行い、結果を集計した。以上を踏まえ、令和2年調査の退院患者の平均在院日数及び在院期間の数値には注意を要する。（関連：12 頁、統計表6、7）

詳細はこちら

「令和2年患者調査の退院票『入院年』について」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/10-20-oshirase-2022-2-nyuuinmen.pdf>

(8) 総患者数の推計には推計患者数、平均診療間隔及び調整係数を用いている。このうち、平均診療間隔は、診療間隔が極端に長い場合は継続的に医療を受けているとせず、再来ではなく初診とみなす方が適当であるとの考え方により、推計の対象となる「前回診療日から調査日までの日数」に算出上限を設け算出している。

この算出方法は、集計開始当時の受療状況を加味して設定されたが、近年の疾病構造の変化や医療技術の向上などにより診療状況に変化が生じていることを踏まえ「患者調査における「平均診療間隔」及び「総患者数」の算出方法等の見直しに関するワーキンググループ」において検討し、平成29年調査まで算出上限日数を30日（31日以上は除外する）と設定していたものについて、令和2年調査以降は、算出の上限日数を98日（99日以上は除外する）にする見直しを行った。

詳細はこちら

「患者調査における「平均診療間隔」及び「総患者数」の算出方法等の見直し方法や、令和2年調査の方法と同様の方法で推計した平成23年から平成29年調査までの結果について」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/10-20-oshirase-2022-1.html>

※ 患者調査は、統計法に基づく基幹統計「患者統計」を作成するための統計調査である。

結 果 の 概 要

1 推計患者数

調査日に全国の医療施設で受療した推計患者数は、「入院」1,175.3千人、「外来」7,275.0千人である。

(1) 施設の種類の性・年齢階級別

「入院」1,175.3千人について、施設の種類の別みると「病院」1,148.6千人、「一般診療所」26.7千人、性別にみると「男」539.9千人、「女」635.4千人、年齢階級別にみると「65歳以上」887.2千人、「70歳以上」805.3千人、「75歳以上」672.9千人となっている。

「外来」7,275.0千人について、施設の種類の別みると「病院」1,516.9千人、「一般診療所」4,494.3千人、「歯科診療所」1,263.8千人、性別にみると「男」3,096.1千人、「女」4,178.9千人、年齢階級別にみると「65歳以上」3,698.2千人、「70歳以上」3,103.7千人、「75歳以上」2,275.3千人となっている。（表1、統計表1）

表1 年齢階級別にみた施設の種類の推計患者数

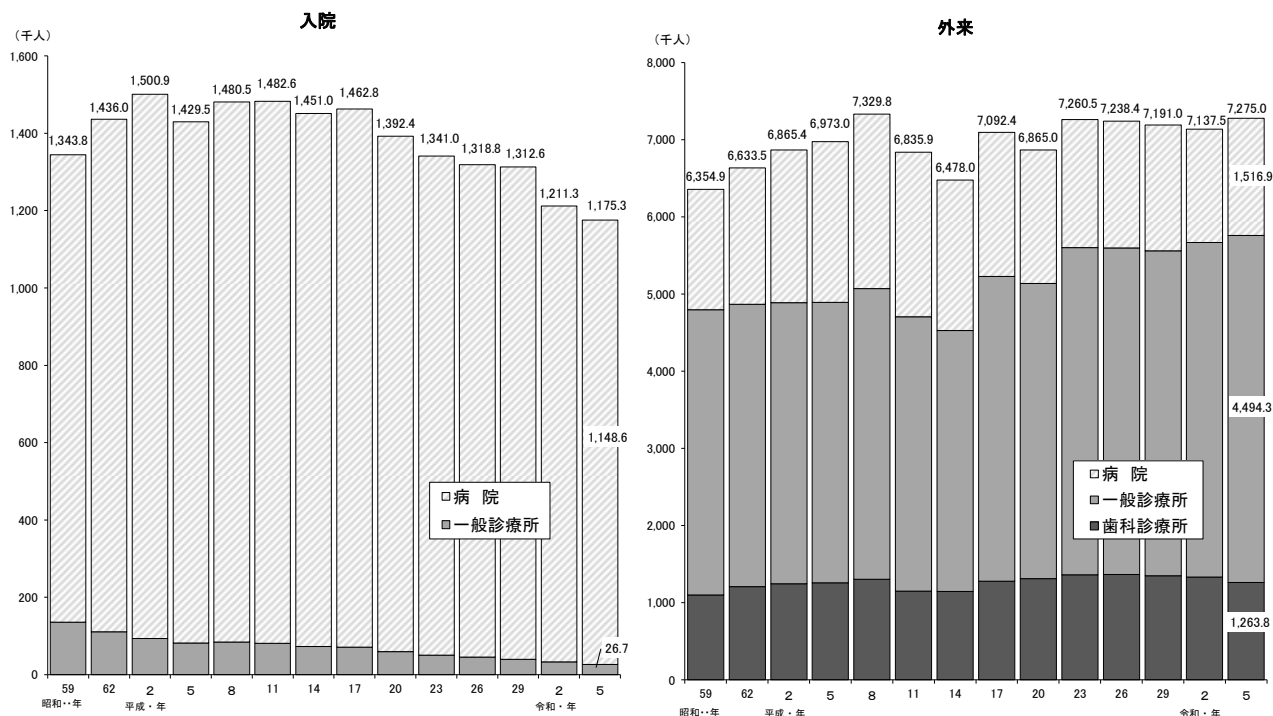
(単位:千人) 令和5年10月

性 年齢階級	入 院			外 来			
	総 数	病 院	一 般 診療所	総 数	病 院	一 般 診療所	歯 科 診療所
総 数	1 175.3	1 148.6	26.7	7 275.0	1 516.9	4 494.3	1 263.8
男	539.9	531.0	8.9	3 096.1	706.8	1 870.3	518.9
女	635.4	617.6	17.8	4 178.9	810.1	2 623.9	744.9
0 歳	9.4	8.8	0.5	49.0	10.2	38.5	0.2
1 ～ 4	5.1	5.1	—	209.5	25.1	168.9	15.6
5 ～ 9	4.2	4.2	—	251.4	26.3	176.0	49.0
10 ～ 14	4.6	4.6	0.0	193.1	22.6	134.8	35.7
15 ～ 19	6.3	6.2	0.1	135.1	19.7	93.8	21.6
20 ～ 24	8.6	8.2	0.3	147.6	23.1	95.1	29.4
25 ～ 29	11.8	10.6	1.3	183.8	29.6	114.8	39.3
30 ～ 34	15.3	13.5	1.8	204.2	35.4	127.0	41.8
35 ～ 39	17.1	16.0	1.1	236.3	42.6	143.7	49.9
40 ～ 44	20.0	19.6	0.4	271.9	52.1	161.0	58.8
45 ～ 49	28.9	28.3	0.7	356.6	70.5	208.7	77.4
50 ～ 54	42.5	42.0	0.5	424.1	90.8	245.6	87.7
55 ～ 59	50.8	49.7	1.0	428.1	94.3	251.9	81.8
60 ～ 64	62.9	62.1	0.8	474.4	106.7	274.8	92.9
65 ～ 69	81.9	80.6	1.3	594.5	133.5	353.5	107.5
70 ～ 74	132.5	130.5	1.9	828.4	198.2	500.9	129.3
75 ～ 79	152.0	149.3	2.6	836.9	202.2	513.3	121.5
80 ～ 84	174.0	171.0	3.0	708.0	168.6	438.4	101.0
85 ～ 89	175.6	171.6	4.0	456.9	105.6	277.6	73.7
90歳以上	171.3	166.1	5.2	273.6	58.6	167.2	47.8
不 詳	0.7	0.6	0.1	11.7	1.0	8.8	1.8
(再 掲)							
65歳以上	887.2	869.2	18.0	3 698.2	866.6	2 250.8	580.8
70歳以上	805.3	788.6	16.8	3 103.7	733.1	1 897.3	473.3
75歳以上	672.9	658.0	14.8	2 275.3	534.9	1 396.4	344.0

推計患者数の年次推移をみると、入院では平成 20 年から減少しており、現在の調査方法となった昭和 59 年以降最も少なくなっている。また、外来では平成 23 年からほぼ横ばいとなっている。（図 1、統計表 1）

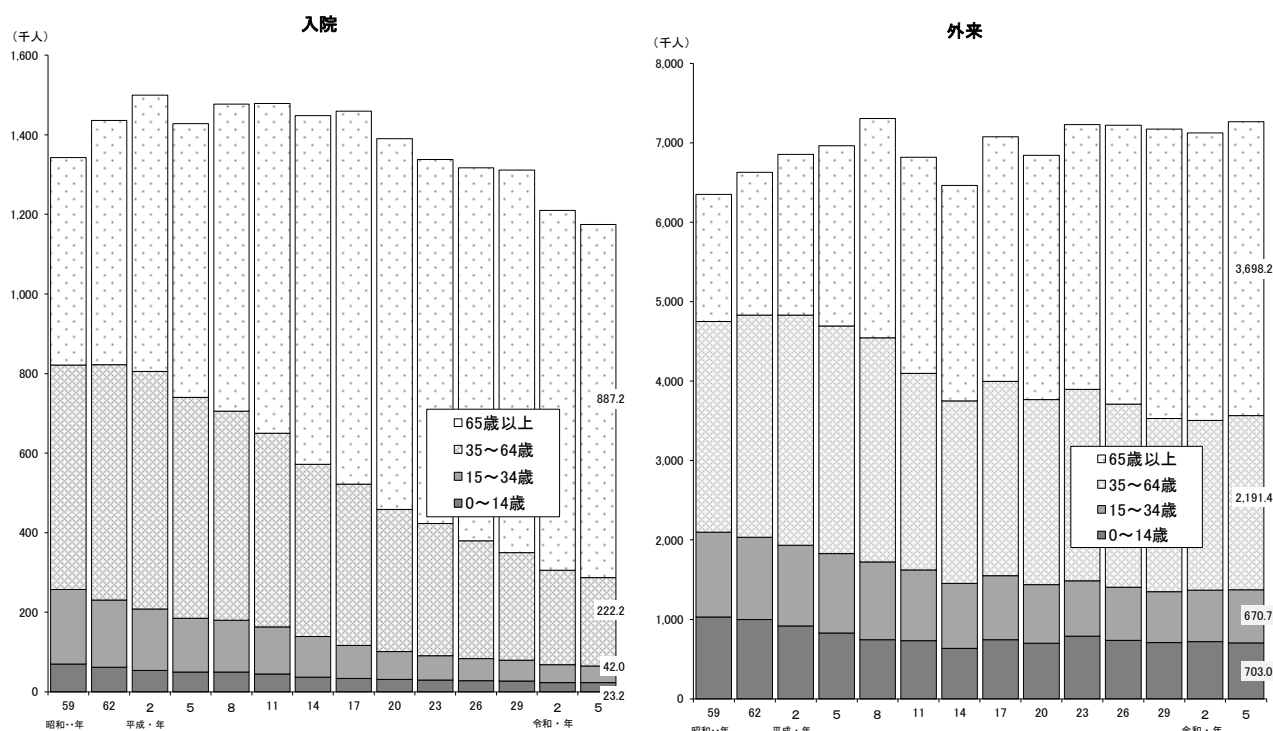
年齢階級別にみると、入院では「65 歳以上」を除くいずれの年齢でも平成 2 年以降減少傾向となっており、外来では平成 23 年以降ほぼ横ばいとなっている（図 2、統計表 1）。

図 1 施設の種類の別みた推計患者数の年次推移



注:平成 23 年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

図 2 年齢階級別にみた推計患者数の年次推移



注:平成 23 年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

(2) 傷病分類別

推計入院患者数を傷病分類別にみると、多い順に「Ⅴ 精神及び行動の障害」213.1千人、「Ⅸ 循環器系の疾患」182.5千人、「ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響」133.5千人となっている。

推計外来患者数では、多い順に「ⅩⅠ 消化器系の疾患」1,236.0千人、「ⅩⅩⅠ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」999.0千人、「Ⅸ 循環器系の疾患」842.2千人となっている。（表2、統計表2、3）

表2 傷病分類別にみた施設の種別推計患者数

(単位:千人)

令和5年10月

傷 病 分 類		入 院			外 来			
		総 数	病 院	一 般 診療所	総 数	病 院	一 般 診療所	歯 科 診療所
総 数		1 175.3	1 148.6	26.7	7 275.0	1 516.9	4 494.3	1 263.8
I	感染症及び寄生虫症	15.6	15.3	0.2	148.4	27.6	120.8	・
	結核 (再掲)	1.3	1.3	－	0.9	0.9	0.1	・
	ウイルス性肝炎 (再掲)	0.4	0.3	0.0	9.5	6.5	3.0	・
II	新生物<腫瘍>	118.8	117.8	1.0	258.2	198.6	59.6	・
	悪性新生物<腫瘍> (再掲)	106.1	105.2	0.9	186.4	152.8	33.6	・
	胃の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	8.6	8.5	0.1	15.5	12.3	3.2	・
	結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	15.8	15.7	0.1	28.0	22.9	5.2	・
	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	4.0	4.0	－	4.2	3.7	0.6	・
	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	14.3	14.2	0.1	18.6	16.9	1.7	・
	乳房の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	5.4	5.3	0.1	33.0	23.8	9.2	・
III	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	5.6	5.6	0.0	20.3	11.1	9.2	・
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	29.1	28.5	0.6	432.5	108.0	324.5	・
	糖尿病 (再掲)	12.7	12.4	0.3	205.4	64.2	141.2	・
	脂質異常症 (再掲)	0.3	0.2	0.0	162.0	19.9	142.2	・
V	精神及び行動の障害	213.1	212.7	0.4	244.6	102.1	142.5	・
	血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	22.8	22.5	0.3	14.1	3.6	10.5	・
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	126.4	126.3	0.0	49.5	32.7	16.7	・
	気分[感情]障害(躁うつ病を含む) (再掲)	26.6	26.6	0.1	76.8	25.8	51.0	・
VI	神経系の疾患	123.2	122.5	0.8	161.8	62.3	99.4	・
	アルツハイマー病 (再掲)	52.7	52.4	0.2	44.0	13.8	30.1	・
VII	眼及び付属器の疾患	10.0	9.5	0.5	333.7	57.4	276.3	・
VIII	耳及び乳突突起の疾患	1.9	1.9	0.0	81.0	12.6	68.5	・
IX	循環器系の疾患	182.5	178.5	4.1	842.2	192.8	649.4	・
	高血圧性疾患 (再掲)	4.2	3.2	1.0	606.4	81.1	525.4	・
	心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	57.2	55.9	1.4	139.0	64.2	74.7	・
	脳血管疾患 (再掲)	109.4	107.9	1.5	74.8	32.6	42.2	・
X	呼吸器系の疾患	83.5	82.5	1.0	625.3	71.8	553.4	・
	肺炎 (再掲)	26.3	25.9	0.4	4.7	2.5	2.2	・
	慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	5.7	5.6	0.1	16.4	5.9	10.5	・
	喘息 (再掲)	2.1	2.0	0.1	98.3	14.7	83.6	・
XⅠ	消化器系の疾患	60.1	57.5	2.6	1 236.0	112.5	157.1	966.4
	う蝕 (再掲)	0.0	0.0	－	222.6	4.2	2.1	216.3
	歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	0.2	0.2	0.0	550.6	9.9	4.6	536.2
	肝疾患 (再掲)	5.5	5.4	0.1	23.1	12.0	11.0	・
XⅡ	皮膚及び皮下組織の疾患	12.3	12.2	0.2	314.2	40.3	273.9	・
XⅢ	筋骨格系及び結合組織の疾患	73.6	70.9	2.7	805.1	160.2	644.9	・
XⅣ	腎尿路生殖器系の疾患	51.1	48.9	2.2	337.1	112.2	224.9	・
	慢性腎臓病 (再掲)	22.0	20.3	1.7	128.8	51.0	77.8	・
XⅤ	妊娠、分娩及び産後	14.1	10.4	3.7	12.1	6.0	6.1	・
XⅥ	周産期に発生した病態	6.6	6.2	0.4	3.3	3.0	0.3	・
XⅦ	先天奇形、変形及び染色体異常	5.5	5.5	0.0	16.4	11.0	5.4	・
XⅧ	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	14.5	13.3	1.2	92.7	42.6	50.1	・
XⅨ	損傷、中毒及びその他の外因の影響	133.5	129.1	4.5	281.9	86.2	194.2	1.5
	骨折 (再掲)	96.3	92.6	3.7	98.1	38.6	59.5	・
XⅩⅠ	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5.7	5.3	0.4	999.0	92.7	610.4	296.0
XⅩⅡ	特殊目的用コード	14.8	14.8	0.1	29.3	6.0	23.3	・

(3) 在宅医療の状況

調査日に在宅医療を受けた推計外来患者数は239.0千人であり、これを施設の種別別にみると、「病院」21.8千人、「一般診療所」121.5千人、「歯科診療所」95.7千人となっている。

在宅医療の種別別にみると、総数では「往診」40.4千人、「訪問診療」166.3千人、「医師・歯科医師以外の訪問」32.4千人となっている。（表3）

年次推移をみると、在宅医療を受けた推計外来患者数は、「往診」「訪問診療」「医師・歯科医師以外の訪問」のいずれでも平成8年以降増加傾向となっている（図3）。

表3 年齢階級別にみた在宅医療を受けた推計外来患者数

令和5年10月																	
(単位:千人)		推計外来 患者数 総数	(総数)				(病院)				(一般診療所)				(歯科診療所)		
年齢階級	在宅 医療		往診	訪問 診療	医師・ 歯科医師 以外の訪問	在宅 医療	往診	訪問 診療	医師・ 歯科医師 以外の訪問	在宅 医療	往診	訪問 診療	医師 以外の 訪問	在宅 医療	訪問 診療	歯科医師 以外の 訪問	
総数	7 275.0	239.0	40.4	166.3	32.4	21.8	6.8	12.8	2.3	121.5	33.6	86.1	1.9	95.7	67.4	28.3	
0 ～ 14 歳	703.0	0.9	0.4	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.7	0.3	0.3	0.0	0.2	0.2	－	
15 ～ 34	670.7	3.3	1.5	1.8	0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	2.6	1.3	1.3	0.0	0.4	0.4	－	
35 ～ 64	2 191.4	14.5	5.5	7.5	1.4	2.5	0.8	0.8	0.9	8.7	4.7	3.8	0.2	3.2	2.9	0.3	
65 歳 以 上	3 698.2	220.0	32.9	156.3	30.8	18.9	5.7	11.9	1.3	109.3	27.2	80.6	1.6	91.8	63.8	28.0	
(再掲)																	
70 歳 以 上	3 103.7	213.9	31.9	151.6	30.3	17.9	5.4	11.4	1.1	106.5	26.6	78.5	1.5	89.4	61.7	27.7	
75 歳 以 上	2 275.3	202.5	30.0	143.8	28.8	16.7	5.0	10.7	0.9	100.2	24.9	74.0	1.3	85.7	59.1	26.6	

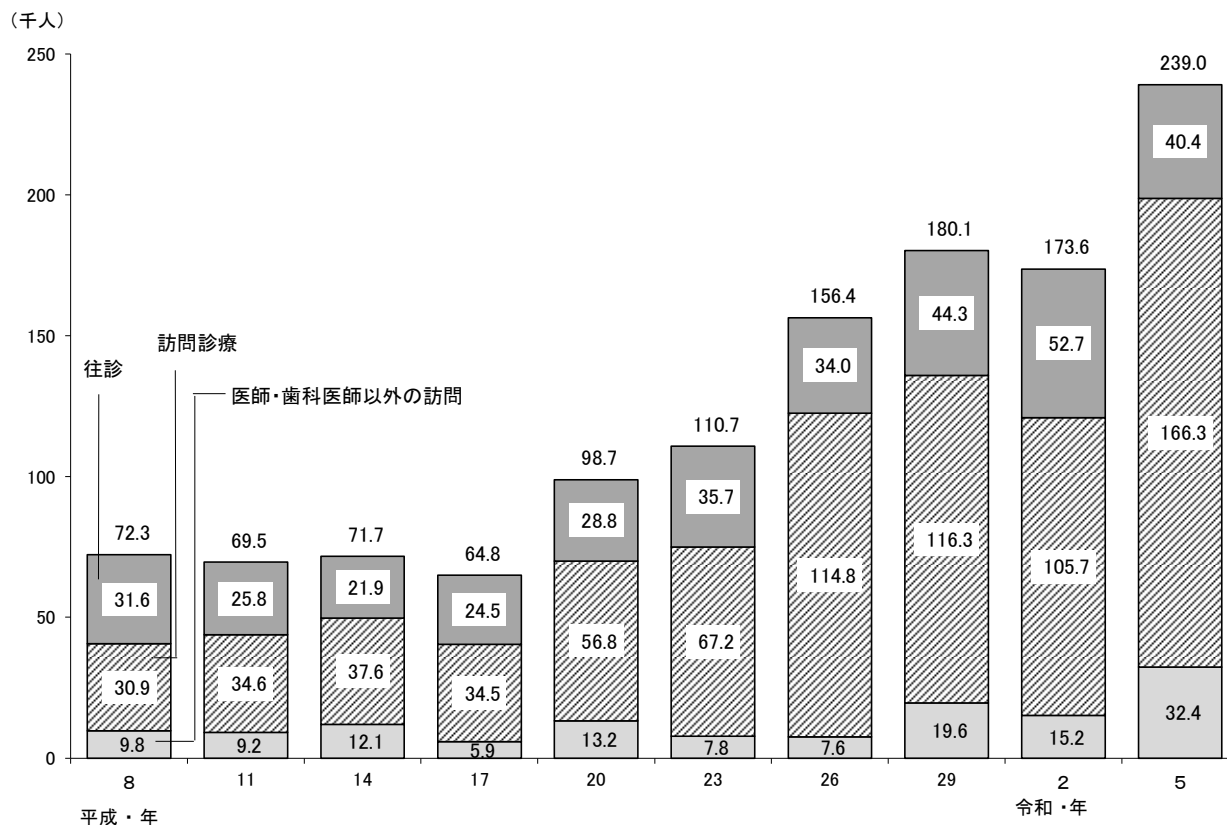
注：1）総数には、年齢不詳を含む。

2）「往診」とは、患者又は家族等の求めに応じて患者（介護老人保健施設等を含む。）に赴いて診療するものをいう。

3）「訪問診療」とは、医科においては、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に医師が訪問して診療を行うものをいい、歯科においては、歯科医師が患者に赴いて診療を行うものをいう。

4）「医師・歯科医師以外の訪問」、「医師以外の訪問」及び「歯科医師以外の訪問」とは、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に当該職種以外の者が訪問して実施されるものをいう。

図3 在宅医療を受けた推計外来患者数の年次推移

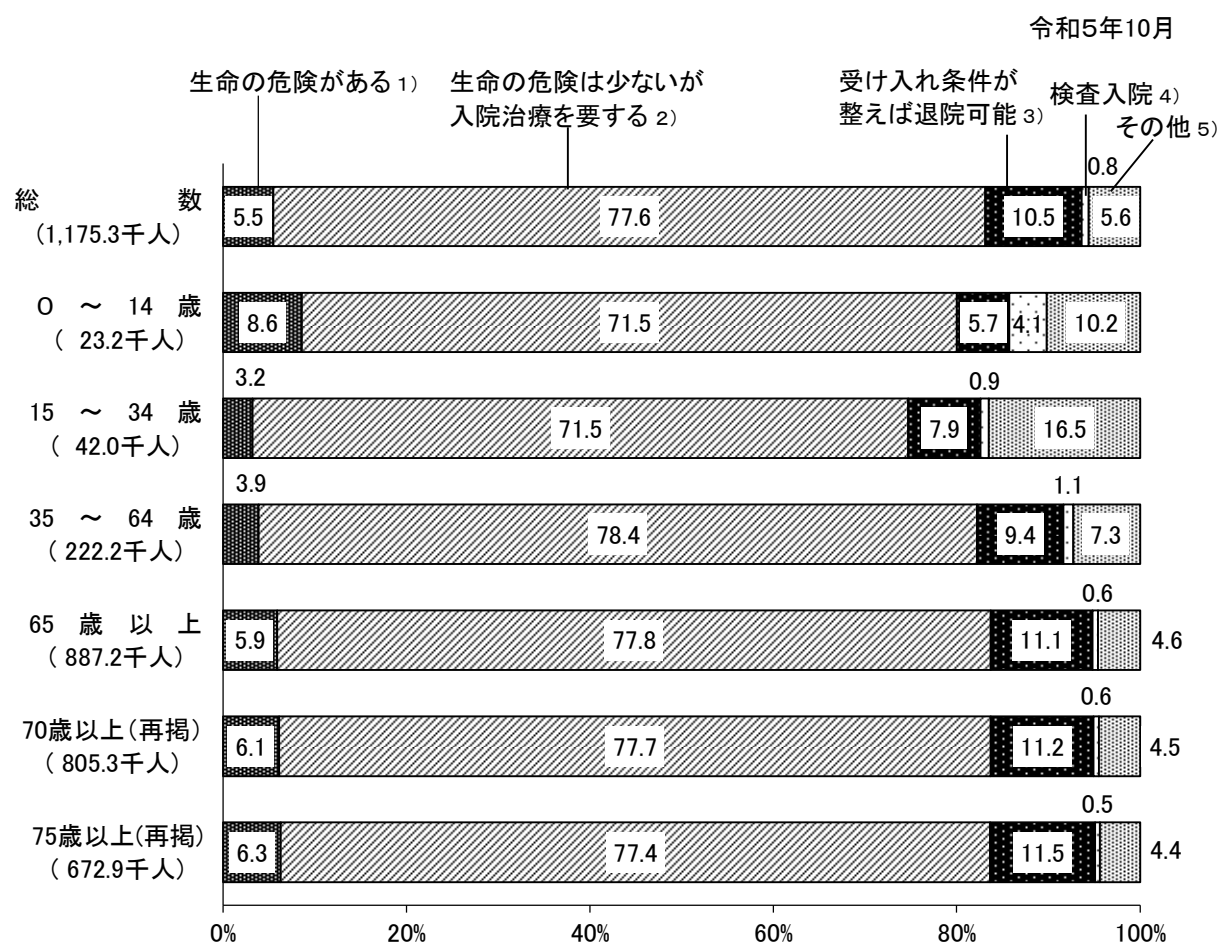


注：平成23年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

(4) 入院（重症度等）の状況

入院（重症度等）の状況をみると、「生命の危険がある」5.5%、「生命の危険は少ないが入院治療を要する」77.6%、「受け入れ条件が整えば退院可能」10.5%、「検査入院」0.8%となっている（図4）。

図4 年齢階級別にみた入院（重症度等）の状況別推計入院患者数の構成割合



- 注：1）「生命の危険がある」とは、生命の危険がある重篤な患者をいう。
 2）「生命の危険は少ないが入院治療を要する」には、退院が決定している患者を含む。
 3）「受け入れ条件が整えば退院可能」とは、退院は決まっていないが退院可能な状態にある患者をいう。
 4）「検査入院」とは、検査のために入院した患者をいい、健康な者に対する一般的検査のための入院患者を含む。
 5）「その他」とは、上記1）～4）以外の入院患者をいう。
 6）総数には、年齢不詳を含む。
 7）（ ）内は、推計入院患者数である。

2 受療率

全国の受療率（人口 10 万対）は、「入院」945、「外来」5,850 である。

(1) 性・年齢階級別

性別にみると、入院では「男」893、「女」995、外来では「男」5,118、「女」6,544 となっており、年齢階級別にみると、入院では「65 歳以上」2,449、「70 歳以上」2,787、「75 歳以上」3,351、外来では「65 歳以上」10,208、「70 歳以上」10,742、「75 歳以上」11,333 となっている（表 4、統計表 4）。

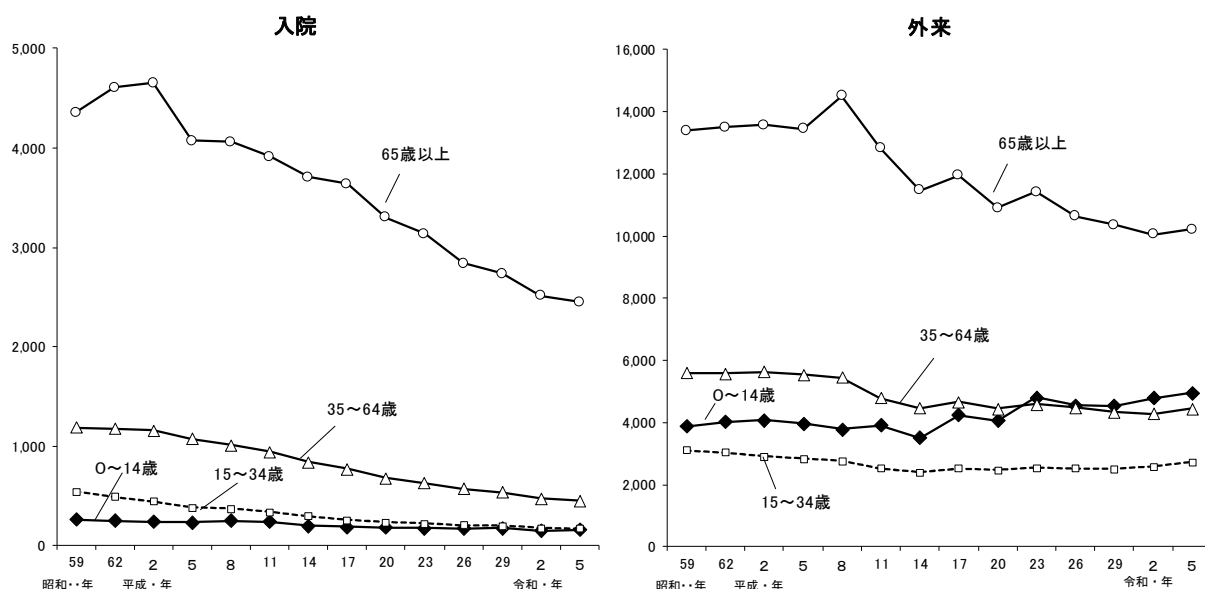
年齢階級別に年次推移をみると、入院、外来ともにいずれの年次でも「65 歳以上」が最も高くなっている。また、外来では「0～14 歳」で、令和 5 年が昭和 59 年以降最も高くなっている。（図 5、統計表 4）

表 4 性・年齢階級別にみた受療率（人口 10 万対）

年齢階級	入 院			外 来		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	945	893	995	5 850	5 118	6 544
0 歳	1 237	1 275	1 197	6 467	6 642	6 284
1 ～ 4	153	165	141	6 291	6 548	6 021
5 ～ 9	86	96	77	5 196	5 404	4 976
10 ～ 14	87	89	85	3 680	3 879	3 472
15 ～ 19	115	113	118	2 459	2 279	2 650
20 ～ 24	137	123	152	2 367	1 783	2 987
25 ～ 29	182	127	241	2 837	1 893	3 836
30 ～ 34	239	158	324	3 201	2 177	4 281
35 ～ 39	242	192	294	3 353	2 360	4 386
40 ～ 44	258	260	256	3 501	2 668	4 358
45 ～ 49	318	335	300	3 912	3 108	4 739
50 ～ 54	441	489	392	4 395	3 510	5 296
55 ～ 59	613	698	528	5 171	4 482	5 860
60 ～ 64	838	983	695	6 320	5 571	7 055
65 ～ 69	1 117	1 320	924	8 108	7 799	8 401
70 ～ 74	1 502	1 770	1 263	9 395	9 163	9 603
75 ～ 79	2 033	2 315	1 803	11 197	10 919	11 428
80 ～ 84	2 952	3 153	2 808	12 010	11 823	12 144
85 ～ 89	4 413	4 589	4 312	11 483	11 740	11 336
90 歳以上	6 275	6 441	6 216	10 021	10 475	9 860
(再 掲)						
65 歳以上	2 449	2 473	2 431	10 208	9 943	10 412
70 歳以上	2 787	2 812	2 769	10 742	10 572	10 864
75 歳以上	3 351	3 354	3 349	11 333	11 306	11 350

注：総数には、年齢不詳を含む。

図 5 年齢階級別にみた受療率（人口 10 万対）の年次推移



注：1）平成 23 年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。
2）数値は、統計表 4 参照。

(2) 傷病分類別

傷病分類別にみると、入院では、高い順に「Ⅴ 精神及び行動の障害」171、「Ⅸ 循環器系の疾患」147、「ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響」107 となっている。外来では、「ⅩⅠ 消化器系の疾患」994、「ⅩⅩⅠ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」803、「Ⅸ 循環器系の疾患」677 となっている。（表5、統計表5）

表5 傷病分類別にみた受療率（人口10万対）

令和5年10月

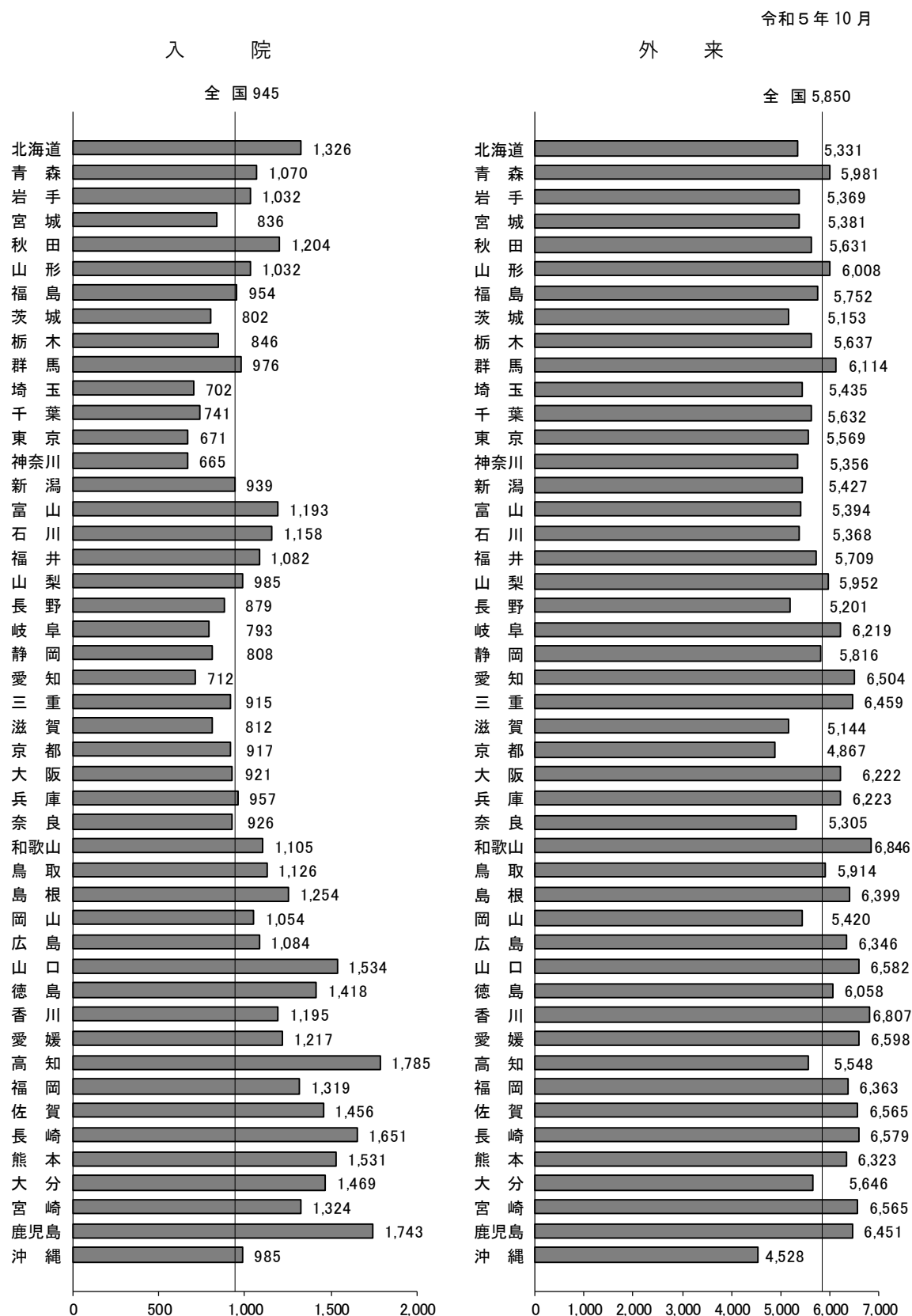
傷 病 分 類	入 院			外 来		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	945	893	995	5 850	5 118	6 544
I 感染症及び寄生虫症	13	13	13	119	114	124
結核 (再掲)	1	1	1	1	1	1
ウイルス性肝炎 (再掲)	0	0	0	8	7	8
II 新生物＜腫瘍＞	96	109	82	208	192	223
悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	85	101	71	150	158	142
胃の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	7	10	4	12	17	9
結腸及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	13	14	11	23	25	20
肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	3	5	2	3	5	2
気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	12	16	7	15	19	12
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	4	0	8	27	1	51
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	4	5	16	10	23
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	23	21	26	348	319	375
糖尿病 (再掲)	10	10	10	165	191	141
脂質異常症 (再掲)	0	0	0	130	85	173
V 精神及び行動の障害	171	164	178	197	182	211
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	18	16	21	11	5	17
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	102	97	106	40	41	39
気分[感情]障害（躁うつ病を含む） (再掲)	21	15	27	62	50	73
VI 神経系の疾患	99	88	110	130	109	150
アルツハイマー病 (再掲)	42	31	53	35	18	52
VII 眼及び付属器の疾患	8	8	9	268	210	323
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2	1	2	65	54	76
IX 循環器系の疾患	147	142	151	677	644	708
高血圧性疾患 (再掲)	3	2	5	488	437	535
心疾患（高血圧性のものを除く） (再掲)	46	44	48	112	125	99
脳血管疾患 (再掲)	88	86	90	60	65	56
X 呼吸器系の疾患	67	77	58	503	490	515
肺炎 (再掲)	21	23	19	4	4	3
慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	5	6	3	13	18	8
喘息 (再掲)	2	1	2	79	71	86
XⅠ 消化器系の疾患	48	52	45	994	848	1 132
う蝕 (再掲)	0	0	0	179	166	192
歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	0	0	0	443	350	531
肝疾患 (再掲)	4	5	4	19	19	18
XⅡ 皮膚及び皮下組織の疾患	10	9	11	253	219	284
XⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	59	47	70	647	496	791
XⅣ 腎尿路生殖器系の疾患	41	41	41	271	254	287
慢性腎臓病 (再掲)	18	21	15	104	142	67
XⅤ 妊娠、分娩及び産じょく	11	・	22	10	・	19
XⅥ 周産期に発生した病態	5	6	5	3	3	2
XⅦ 先天奇形、変形及び染色体異常	4	5	4	13	13	14
XⅧ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12	9	14	75	60	88
XⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	107	81	132	227	225	228
骨折 (再掲)	77	45	108	79	63	94
XⅩⅠ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5	4	6	803	652	947
XⅩⅡ 特殊目的用コード	12	13	11	24	25	23

(3) 都道府県別

都道府県(患者住所地)別にみると、入院では、「高知」が1,785と最も高く、次いで「鹿児島」1,743、「長崎」1,651となっている。また、「神奈川」が665と最も低く、次いで「東京」671、「埼玉」702となっている。

外来では、「和歌山」が6,846と最も高く、次いで「香川」6,807、「愛媛」6,598となっている。また、「沖縄」が4,528と最も低く、次いで「京都」4,867、「滋賀」5,144となっている。(図6)

図6 都道府県(患者住所地)別にみた受療率(人口10万対)

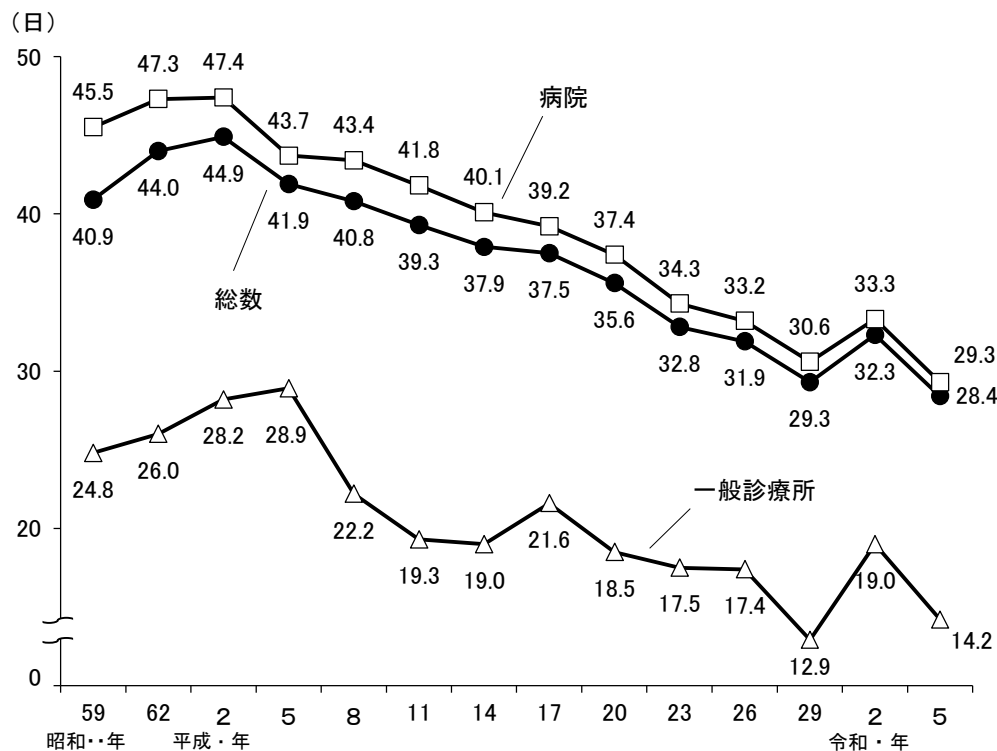


3 退院患者の平均在院日数等

(1) 施設の種類の年齢階級別

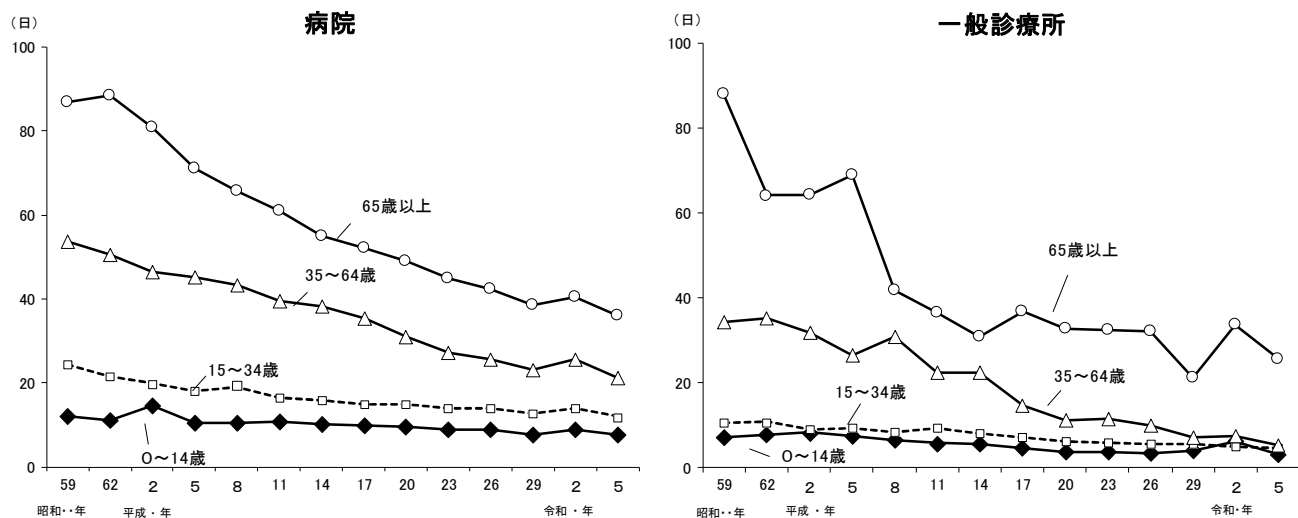
令和5年9月中の全国の退院患者について、在院日数の平均である平均在院日数を施設の種別にみると、「病院」29.3日、「一般診療所」14.2日となっている（図7、統計表6）。
年齢階級別にみると、「65歳以上」が最も長くなっている（図8、統計表6）。

図7 施設の種別にみた退院患者の平均在院日数の年次推移



注：1) 各年9月1日～30日に退院した者を対象とした。
2) 平成23年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。
3) 令和2年調査の退院患者の平均在院日数には注意を要する。詳細は3頁「8 利用上の注意」(7)参照。

図8 年齢階級別にみた退院患者の平均在院日数の年次推移



注：1) 各年9月1日～30日に退院した者を対象とした。
2) 平成23年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。
3) 令和2年調査の退院患者の平均在院日数には注意を要する。詳細は3頁「8 利用上の注意」(7)参照。
4) 数値は、統計表6参照。

(2) 傷病分類別

退院患者の平均在院日数を傷病分類別にみると、長い順に「Ⅴ 精神及び行動の障害」290.4日、「Ⅵ 神経系の疾患」が93.3日、「Ⅸ 循環器系の疾患」34.6日となっている（表6、統計表7）。

表6 傷病分類別にみた年齢階級別退院患者の平均在院日数

(単位: 日)		令和5年9月						
傷 病 分 類		総数	0～14歳	15～34歳	35～64歳	65歳以上	70歳以上 (再掲)	75歳以上 (再掲)
総 数		28.4	7.6	10.5	20.2	35.5	36.7	39.0
I 感染症及び寄生虫症		25.1	4.4	6.4	17.4	36.0	37.9	41.4
	結核 (再掲)	44.3	6.8	31.6	34.7	48.1	48.8	49.0
	ウイルス性肝炎 (再掲)	13.4	7.0	9.0	10.8	17.7	19.2	20.9
II 新生物＜腫瘍＞		13.4	12.4	9.0	9.7	15.1	15.7	17.1
	悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	14.4	19.0	14.0	10.7	15.5	16.2	17.6
	胃の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	14.7	16.8	8.8	10.3	15.6	16.4	17.4
	結腸及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	15.3	12.0	9.9	11.5	16.6	17.7	19.4
	肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	13.6	8.2	11.8	10.2	14.2	14.8	16.1
	気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	14.1	7.5	11.1	10.6	14.9	14.8	16.2
	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ (再掲)	9.4	2.3	6.5	7.2	12.1	13.3	15.6
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害		18.1	8.0	9.2	12.9	21.6	22.0	22.1
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患		24.7	4.7	8.8	14.2	30.8	31.9	34.1
	糖尿病 (再掲)	31.8	10.8	11.1	13.8	44.3	48.4	56.8
	脂質異常症 (再掲)	21.3	5.0	11.7	4.4	32.0	37.9	43.3
V 精神及び行動の障害		290.4	42.8	58.5	187.1	511.3	525.8	507.6
	血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	285.2	－	37.0	154.2	288.7	288.6	279.1
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	569.5	31.1	97.1	281.0	1 205.6	1 382.3	1 530.1
	気分[感情]障害(躁うつ病を含む) (再掲)	118.2	53.6	37.4	85.3	184.3	187.8	203.2
VI 神経系の疾患		93.3	13.7	34.3	50.6	131.1	137.1	151.6
	アルツハイマー病 (再掲)	279.6	－	364.4	143.7	281.6	281.3	285.3
VII 眼及び付属器の疾患		3.2	3.9	4.2	3.6	3.1	3.0	3.2
VIII 耳及び乳様突起の疾患		5.4	3.2	4.9	4.9	6.2	6.4	6.9
IX 循環器系の疾患		34.6	9.6	12.8	20.4	38.6	40.2	43.1
	高血圧性疾患 (再掲)	41.6	3.6	7.5	20.3	45.0	46.3	47.4
	心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	18.3	13.0	8.5	8.3	20.9	22.0	24.9
	脳血管疾患 (再掲)	68.9	11.8	31.4	44.5	75.5	77.7	80.1
X 呼吸器系の疾患		26.6	5.2	6.9	14.0	34.9	35.6	37.0
	肺炎 (再掲)	26.0	5.1	8.9	14.7	30.1	30.5	31.6
	慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	49.8	20.6	12.4	19.4	52.2	53.2	54.7
	喘息 (再掲)	8.2	4.8	7.6	7.9	18.9	20.0	21.5
X I 消化器系の疾患		10.3	4.7	5.6	6.8	13.0	14.0	15.2
	う蝕 (再掲)	1.1	0.7	0.8	1.5	2.0	1.9	2.0
	歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	1.8	1.5	1.5	1.7	2.8	2.8	3.1
	肝疾患 (再掲)	22.3	12.2	10.0	17.8	25.9	28.1	27.7
X II 皮膚及び皮下組織の疾患		26.9	5.9	7.8	15.9	35.7	37.3	39.1
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患		29.6	9.2	10.1	17.6	35.6	37.7	41.5
X IV 腎尿路生殖器系の疾患		22.3	7.5	4.1	9.4	30.4	32.1	35.0
	慢性腎臓病 (再掲)	57.3	12.1	13.0	25.8	66.5	70.5	77.9
X V 妊娠、分娩及び産じょく		7.4	10.5	6.5	8.6	－	－	－
X VI 周産期に発生した病態		11.1	10.8	531.8	－	－	－	－
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常		21.1	11.2	33.4	66.8	27.9	28.2	25.6
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		28.2	4.6	5.9	14.2	38.8	39.4	41.0
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響		29.4	2.6	8.6	18.1	38.0	39.1	40.9
	骨折 (再掲)	35.4	3.7	9.0	19.1	42.0	43.3	45.2
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用		9.1	4.0	5.3	6.4	19.7	21.4	25.2
X X II 特殊目的用コード		18.5	3.7	5.7	23.8	18.9	18.9	19.4

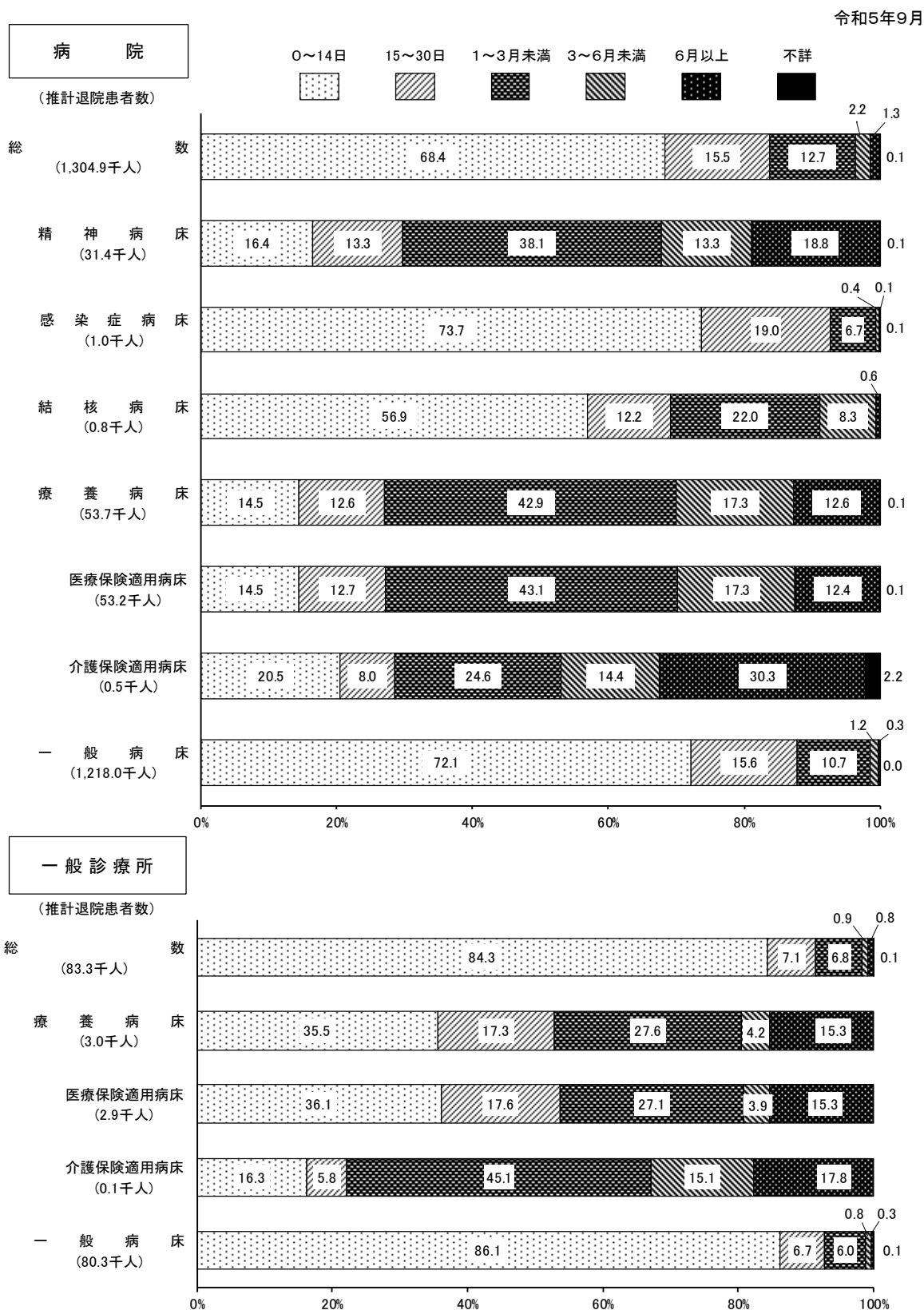
注：1）令和5年9月1日～30日に退院した者を対象とした。

2）総数には、年齢不詳を含む。

(3) 推計退院患者数の構成割合

退院患者の在院期間別に推計退院患者数の構成割合をみると、病院は「0～14 日」が 68.4%、「15～30 日」が 15.5%、一般診療所は「0～14 日」が 84.3%、「15～30 日」が 7.1%となっている（図 9）。

図 9 病床の種類別にみた在院期間別の推計退院患者数の構成割合



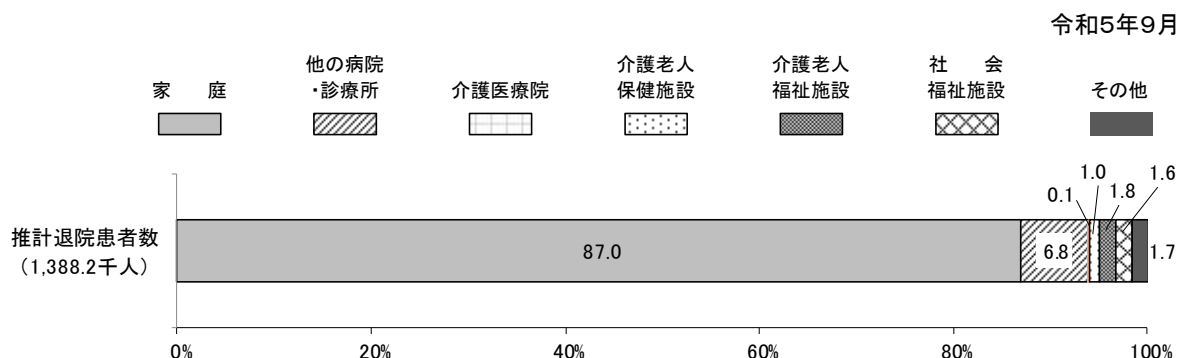
注：1）令和5年9月1日～30日に退院した者を対象とした。
2）病床の種類は退院時のものである。

4 入院前の場所・退院後の行き先

入院前の場所についてみると、推計退院患者数 1,388.2 千人のうち「家庭」が 87.0%となっている（図 10、統計表 8）。

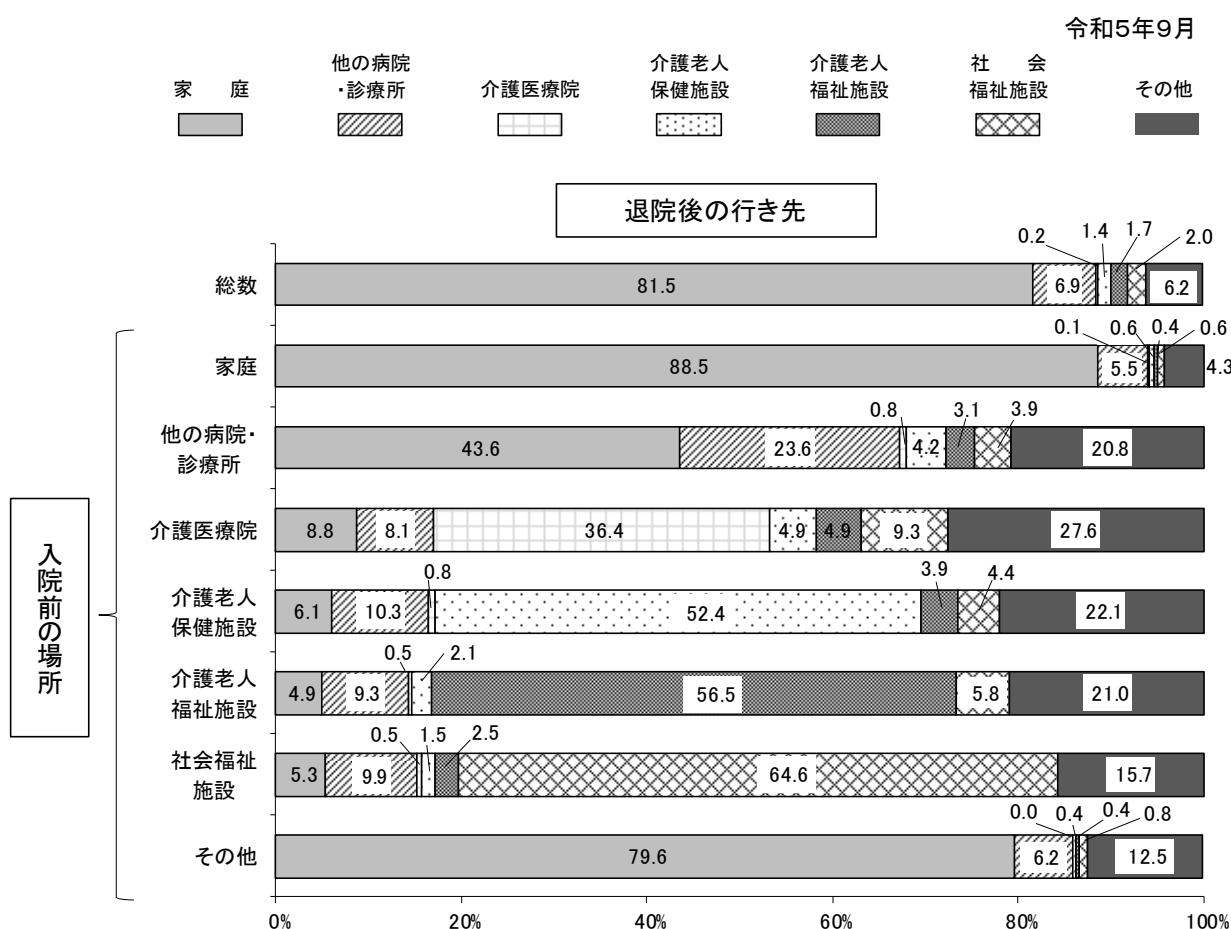
また、退院後の行き先についてみると、「家庭」が 81.5%となっている（図 11、統計表 8）。

図 10 入院前の場所別の推計退院患者数の構成割合



- 注：1) 令和5年9月1日～30日に退院した者を対象とした。
 2) 「家庭」には、病院・一般診療所への通院、在宅医療も含む。
 3) 入院前の場所における「その他」とは、入院前の場所が特定できない者で、当該医療施設内で出生した新生児・不明等も含む。

図 11 入院前の場所・退院後の行き先別にみた推計退院患者数の構成割合



- 注：1) 令和5年9月1日～30日に退院した者を対象とした。
 2) 「家庭」には、病院・一般診療所への通院、在宅医療も含む。
 3) 入院前の場所における「その他」とは、入院前の場所が特定できない者で、当該医療施設内で出生した新生児・不明等も含む。
 4) 退院後の行き先における「その他」とは、退院後の行き先が特定できない者で、死亡・不明等も含む。

5 傷病分類別の総患者数

総患者数を傷病分類別でみると、多い順に「IX 循環器系の疾患」22,101千人、「XI 消化器系の疾患」21,201千人、「IV 内分泌、栄養及び代謝疾患」11,967千人となっている（表7）。

表7 傷病分類別にみた総患者数

（単位：千人）

令和5年10月

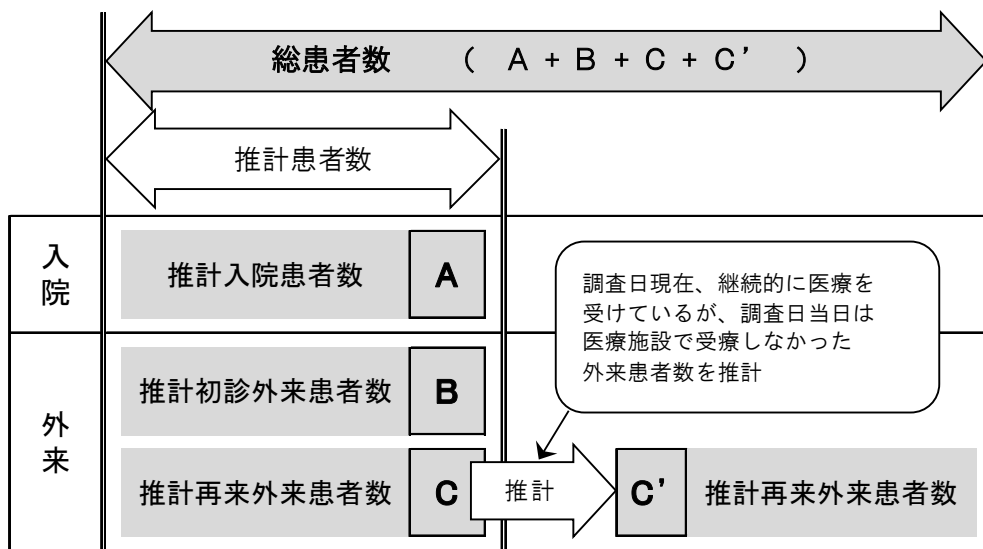
傷 病 分 類	総 数	男	女
I 感染症及び寄生虫症	1 971	887	1 084
II 新生物＜腫瘍＞	5 179	2 348	2 833
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	442	129	313
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	11 967	5 510	6 458
V 精神及び行動の障害	4 896	2 149	2 747
VI 神経系の疾患	3 649	1 585	2 064
VII 眼及び付属器の疾患	8 999	3 351	5 653
VIII 耳及び乳様突起の疾患	955	363	591
IX 循環器系の疾患	22 101	10 799	11 305
X 呼吸器系の疾患	6 504	3 053	3 450
XI 消化器系の疾患	21 201	8 745	12 457
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	5 653	2 377	3 275
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	9 856	3 212	6 642
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	5 264	2 179	3 113
XV 妊娠、分娩及び産じょく	142	・	142
XVI 周産期に発生した病態	82	48	34
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	340	167	173
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1 194	465	729
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2 296	984	1 311
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	9 099	3 250	5 852
XXII 特殊目的用コード	160	75	84

注：総患者数は、表章単位ごとの平均診療間隔を用いて算出するため、男と女の合計が総数に合わない場合がある。

※ 総患者数（傷病別推計）とは

ある傷病における外来患者が一定期間ごとに再来するという仮定に加え、医療施設の稼働日を考慮した調整を行うことにより、調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受療していない者を含む。）の数を次の算式により推計したものである。

総患者数＝推計入院患者数＋推計初診外来患者数＋（推計再来外来患者数×平均診療間隔×調整係数（6/7））



※※ 総患者数の推計方法の見直し

総患者数の推計には推計患者数、平均診療間隔及び調整係数を用いている。このうち、平均診療間隔は、診療間隔が極端に長い場合は継続的に医療を受けているとせず、再来ではなく初診とみなす方が適当であるとの考え方により、推計の対象となる「前回診療日から調査日までの日数」に算出上限を設け算出している。

この算出方法は、集計開始当時の受療状況を加味して設定されたが、近年の疾病構造の変化や医療技術の向上などにより診療状況に変化が生じていることを踏まえ「患者調査における「平均診療間隔」及び「総患者数」の算出方法等の見直しに関するワーキンググループ」において検討し、平成29年調査まで算出上限日数を30日（31日以上は除外する）と設定していたものについて、令和2年調査以降は、算出の上限日数を98日（99日以上は除外する）にする見直しを行った。

詳細はこちら

「患者調査における「平均診療間隔」及び「総患者数」の算出方法等の見直し方法や、令和2年調査の方法と同様の方法で推計した平成23年から平成29年調査までの結果について」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/10-20-oshirase-2022-1.html>